

日本総合歯科学会雑誌・第16巻発刊に際して

一般社団法人 日本総合歯科学会
副理事長 紙 本 篤

日本総合歯科学会の会員の皆様、並びに本学会に携わる全ての関係者の皆様に、心からの感謝と敬意を表します。

本学会は、2008年に総合歯科医療に関する診療・研究・人材育成を協議することを目的に「総合歯科協議会」として設立され、その後、2013年には「日本総合歯科学会」と称する学会組織として旗揚げし、さらに2020年には「一般社団法人 日本総合歯科学会」と法人格を有する団体へと発展してきました。

設立当初から、本学会は「包括的総合歯科医療に関する研究・教育の進歩・発展を期し、併せて総合歯科医療、口腔プライマリケアの向上に寄与し、もって国民の健康福祉の向上に貢献する」という理念を掲げ、日々研鑽を重ねてまいりました。今年で16年が経過しましたが、数多くの先生方のご尽力により、学術団体としてさまざまな事業が展開され、歯科医療の各分野における知識の拡充、技術の向上、そして実践的な診療の質の向上を図り、全会員が「総合的な歯科医療の実現」を目指して努力を続け、その成果として、多くの結果と学びを得ることができたことを、非常に嬉しく思っております。

一昨年前、初の選挙による役員改選が執り行われ、長谷川執行部が発足しました。本執行部では、2年間の任期の中で、主に本学会が会員の「生涯の学びの場」になる仕組みの基盤の確立を掲げました。具体的には、『有益な学術的情報を提供するためのプログラム等を検討し、そのプログラムを通して全会員に情報公開すること。』、『各種プログラムへの会員の参加を奨励し、これらに沿った研鑽が学会の認定制度によって適切に評価されること。』さらには、『プログラムなどの情報発信に積極的に「ICT (Information and Communication Technology 情報通信技術)」を有効利用し、これまでの学術大会、学会誌に加えて、全会員と学会がオンラインで連携すること。』を実現できる仕組みの構築の検討を続けてまいりました。2年間という短い期間でもあり、この構築も志半ばではありますが、本学会の繁栄のため、是非とも全会員が一丸となって、継続的に遂行していくことを願います。

さて、今回で第16巻目を迎えた学術雑誌『日本総合歯科学会雑誌』の発展も、当学会の重要な成果の一つです。設立から今日に至るまで、本誌は研究成果や臨床の知見を広く発信し、歯科医療の発展に寄与してきました。本事業にご尽力いただいております編集査読委員

長の角先生をはじめ、委員会の構成員および査読委員の方々には、深く感謝を申し上げます。また、論文をご投稿いただきました皆様にも御礼申し上げます。今後もより一層質の高い論文を掲載し、会員の皆様にとって有益な情報を提供するために、多くの会員の皆様にご協力をいただき、尽力していきたいと考えております。

この16年間の歩みを振り返ると、多くの変化と進化があったことを実感します。まず、歯科医療の技術や方法が大きく進化しました。新しい診療技術の導入や、デジタル技術の進展により、治療の精度は飛躍的に向上しました。また、歯科医療を取り巻く環境にも変化が見られます。患者さんのニーズが多様化し、予防歯科や口腔ケアの重要性がますます認識されるようになっていきます。

一方、歯学教育においては、卒前・卒後の一貫した歯科医師養成の必要性が求められるようになり、歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂、歯科医師臨床研修制度の改正に合わせ、学部教育から生涯研修への繋がりを常に模索しつつ、シームレスな歯科医師養成を充実させなければなりません。本学会もその一端を担い、歯学教育の向上に寄与することを目指さなければなりません。

16年という時間は、決して短いものではありませんが、振り返るとあっという間に感じられます。これからも、私たちは学会の使命を全うし、さらなる発展を遂げるために努力を続けていかなければなりません。そのためには、会員の皆様のご意見やご提案を積極的に取り入れ、より良い学会づくりに邁進していく所存です。

本学会は一般社団法人としての法人格ですが、学術団体としての基盤となる学会誌の編集業務および認定医制度は、今後更なる検討が必要とされるべき課題です。学会が掲げる総合歯科医療、口腔プライマリケアの向上は、患者あるいは国民のためであり、それには臨床および臨床研究、さらには基礎的研究が非常に大切となります。

諸先輩方が築き上げた本学会をさらに発展させるために、将来を見据えながら、継続的かつ持続的な活動を展開していく必要があります。このためには、全会員が一体となって、同じ目標に向け協力し合い、学会を健全に運営していくことが不可欠となります。

結びにあたり、日本総合歯科学会の未来に向けて、共に歩み、さらなる発展を果たしていくために、今後とも会員の皆様には、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。